

## 保育園自己評価の公表

「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」と保育指針に明記されています。当法人では、このことに基づいて検討し、保育園（組織）としての自己評価について、評価の項目、視点、方法および評価結果の示し方等について標準的な様式として作成いたしました。

### 1 施設・事業所の概要

- (1) 法人名 社会福祉法人なごみ会
- (2) 事業所名 ふえありーている保育園
- (3) 所在地 埼玉県新座市野火止5-29-33
- (4) 電話番号 048-483-1166
- (5) 福祉サービスの種別 保育所

### 2 実地調査日

令和3年 2月 27日

3 実施人数 園長 常勤保育士

### 3 評価結果の概要

A	: 10 ポイント	たいへんによい
B	: 9 ポイント	よい
C	: 8 ポイント	一部検討を要する
D	: 7 ポイント	改善を要する

評価基準	評価結果
I. 子どもの発達援助	
1 発達援助の基本	
(1)保育計画が、保育の基本方針に基づき、更に地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。	B
(2)指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。	A
(3)一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となってい。	B
(4)一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもに関係する全職員に周知されている。	A
(5)一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際にについて話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。	A
2 健康管理・食事	
(6)登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。	A
(7)健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映している。	A
(8)感染症への対応については、マニュアルがあり、発生に際しては、その状況を必要に応じて保護者に連絡している。	A
(9)専門医から指示があった場合において、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	A
(10)日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。	A
(11)食事を楽しむことができる工夫をしている。 ア 食事をする部屋としての雰囲気づくりに配慮している。 イ 食器の材質や形などに配慮している。 ウ 個人差や食欲に応じて量を加減できるよう工夫している。	B

- エ 子どもの負担になるほどに、残さず食べることを強制した偏食を直そうと叱ったりしていない。
- オ 子どもが落ち着いて食事をとれる楽しめるように工夫している。
- カ 時には戸外で食べるなどの工夫がある。
- キ おやつは、手作りを心がけている。
- ク 旬のものや季節感のあるものを多く取り入れている。
- ケ 嗜好調査や喫食状況に基づき食事内容を改善している。
- コ 子どもが育てた野菜などを料理して食べることがある。
- サ 子どもが配膳や後片づけなどに参加できるよう配慮している
- シ 調理作業をしている場面を子どもたちがみたり言葉を交わしたりできるような工夫を行っている。

### 3 保育環境

- (12) 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している A
- ア 採光に配慮している。
- イ 換気に配慮している。
- ウ 各部屋に湿温計などがあり、温度・湿度に配慮している。
- エ 手洗い場、トイレは、保育中も時折り清掃し、不快なにおいがないようにしている。
- オ 寝具の消毒や乾燥を定期的に行っている。
- カ 屋外の砂場や遊具の衛生面に配慮している。
- (13) 生活の場に相応しい環境とする取組みを行っている。 A
- ア 子どもが不安になったりした時にいつでも応じられるように保育者が身近にいる。
- イ 一人一人の子どもがくつろいだり落ち着ける場所がある。
- ウ 眠くなった時に安心して眠ることができる空間が確保されている。
- エ 食事のための空間が確保されている。
- オ 季節にあわせてインテリアが工夫されている。
- カ 配色に配慮した保育室となっている。
- キ 音楽や保育者の声など、音に配慮している。
- ク 屋外での活動の場が確保されている。

### 4 保育内容

- (14) 子ども一人一人への理解を深め 受容しようと努めている B
- ア 子どもに分かりやすい温かな言葉づかいで、おだやかに話している。
- イ 「早くしなさい」とせかす言葉や「ダメ」「いけません」など制止することばを必要に用いないようにしている。
- ウ 子どもの質問に対して「待ってて」「あとで」などと言わずに、なるべくその場で対応している。
- エ できない やって などと言ってくる子どもに対してその都度気持ちを受け止めて対応している。
- オ 登園時に泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ったりするのではなく、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている。
- カ 「いや」と駄々をこねたり、自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。

(15) 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人一人の子どもの状況に応じて対応している。

A

ア トイレに行くことをせかしたり 一斉に強制したりせずに、一人一人のリズムに合わせるようにしている。

イ おもらしをしたときに、その都度やさしく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮している。

ウ 衣服の脱ぎ着に際して、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやりたいという子どもの気持ちを大切にしている。

エ 子どもが自分で着脱しやすいように、衣類の整理の仕方や着方の援助について工夫がみられる。

オ 休息時には、子守歌を歌ったり、背中を軽くたたくなど、安心して心地よい眠りにつけるように配慮している。

カ 休息時間以外でも、一人一人の状況に応じて、眠ったり、身体を休ませたりしている。

キ 休息時間に、眠くない子どもへの配慮をしている。

(16) 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。

B

ア 子どもの発達段階に即した玩具や遊具が用意されている。

イ 子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫されている。

ウ 好きな遊びができるコーナーが用意されている。

エ 子どもが自由に遊べる時間が確保されている。

(17) 身近な自然や社会と関わるような取組みがされている。

A

ア 子どもが動植物に接する機会をつくっている。

イ 園庭や散歩で拾ってきた葉や木の実など、季節感のある素材を活用している。

ウ 散歩などで地域の人たちに接する機会をつくっている。

エ 地域の公共機関を利用するなど、社会体験が得られる機会をつくっている。

(18) さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。

A

ア 子どもが自由に歌ったり、踊ったりする場面がみられる。

イ さまざまな楽器を楽しめるようになっている。

ウ クレヨン・絵具・粘土・紙など、様々な素材を子どもたちが自分で使えるように用意されている。

エ 子どもの作品が、保育に活かされたり、工夫して飾られたりするなど、大切に扱われている。

オ 身体を使った様々な表現遊びが取り入れられている。

カ 絵本の読みきかせや紙芝居などを積極的に取り入れている。

(19) 遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。

ア 子ども同士の関係をよりよくするような適切な言葉かけをしている。

A

イ けんかの場面では、危険のないように注意しながら、子どもたち同士で解決できるよう援助している。

ウ 順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。

エ 日常生活における役割分担などが工夫して取り入れられている。

オ 異年齢の子どもの交流が行われている。

(20) 子どもの人権に十分配慮するとともに 文化の違いを認め互いに尊重する心を育てるよう配慮している。

A

ア 子どもが、自分の意見を保育者などの大人にはつきり言うことができ、他の子どもの

	<p>気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。</p> <p>イ 一人一人の子どもの生活習慣や文化、考え方などの違いを知り、それを尊重する心を育てるよう努めている。</p> <p>ウ 子どもの人権への配慮や互いを尊重する心を育てるための具体的な取り組みを行っている。</p> <p>エ 子どもの権利擁護に関する研修等に職員が参加している。</p>
(21)	<p>性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。 A</p> <p>ア 「男の子だからめそめそするな」などと、子どもの態度について 性差への先入観による固定的な対応をしていない。</p> <p>イ 「それは女の子の色」などと、子どもの服装について性差への先入観による固定的な対応をしていない。</p> <p>ウ それは女の子の遊び などと 子どもの遊び方について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。</p> <p>エ 「男の子だから家事をすることはない」などと、育児、家事、介護などについて、性差への先入観による固定的な対応をしていない。</p> <p>オ 「それは男の子の仕事」などと、職業について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。</p>
(22)	<p>乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。 A</p> <p>ア 授乳は、子どもが欲しがる時に、抱いて目をあわせたり微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。</p> <p>イ 離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている。</p> <p>ウ おむつ交換時は、やさしく声をかけたり、スキンシップをとりながら行っている。</p> <p>エ 一人一人の生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、静かな空間が確保されている。</p> <p>オ 外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。</p> <p>カ 哺語には、ゆったりとやさしく応えている。</p> <p>キ 顔を見合ってあやしたり、乳児とのやりとりや触れ合い遊びを行っている。</p> <p>ク たて抱き、腹這いなど、子どもの姿勢を変えている。</p> <p>ケ 寝返りのできない乳児を寝かせる場合には仰向けに寝かせている。</p> <p>コ 特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮している。</p>
(23)	<p>長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。 A</p> <p>ア 家庭的な雰囲気が感じられる。</p> <p>イ 好きなことをくつろげる空間や遊具がある。</p> <p>ウ 長時間保育を受ける子どもに夕食や軽食が提供されている。</p> <p>エ 一人一人の子どもの要求に応えて、抱いたり、声をかけるなど、ゆったりと接している。</p> <p>オ 異年齢の子ども同士で遊べるように配慮されている。</p> <p>カ 子どもの状況について、職員間の引継ぎを適切に行っているか。</p>
(24)	<p>障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。 B</p> <p>ア バリアフリーの配慮がみられる。</p> <p>イ 障害のない子どもの、障害児への関わりに対して配慮している。</p>

- ウ 障害児の特性に合わせた園での生活の仕方の計画が立てられている。
- エ 障害児保育について保育所全体で定期的に話し合う機会を設けている。
- オ 障害児保育に携わる者は、障害児保育に関する研修を受けている。
- カ 医療機関や専門機関から相談や助言を必要に応じて受けられる。
- キ 保護者に、障害児に関する適切な情報を伝えるための取組みを行っている。

	II. 子育て支援	
1、 入所児童の保護者の育児支援		
(1)一人一人の保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	A	
(2)家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	A	
(3)子どもの発達や育児などについて、保護者と共に理解を得るための機会を設けている。	A	
(4)虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報をもとに速やかに対処している。	A	
(5)虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	A	
2、 多様な保育ニーズへの対応		
(6)地域の保育ニーズを把握するための取り組みを行い、それを事業に反映している。	実施なし	
3、 地域の子育て支援		
(7)育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている	実施なし	
ア 電話やファックスなどによる子育て相談を行っている。		
イ 来園による子育て相談を行っている。		
ウ 育児情報の提供を行っている。		
エ 親子学校など地域の子育て家庭の親子が定期的に集まる機会を設けている。		
オ 地域の子育て家庭の親子と園に通っている親子が交流する機会を設けている。		
カ 地域の母子保健活動と連携した取り組みを行っている。		
(8)一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	実施なし	
ア 一時保育のための空間の確保に配慮している。		
イ 一時保育のための担当者が決められている。		
ウ 一人一人の子どもの日々の状態を把握している。		
エ 保護者とのコミュニケーションを十分にとっている。		
オ 一時保育を利用する子どもと通常保育を利用する子どもとの交流に配慮している。		
III. 地域の住民や関係機関等との連携		
1 地域の住民や関係機関・団体との連携		
(1)保育所の役割を果たすために必要な地域の関係機関などの情報を収集し、それを職員が共有している。	A	
(2)子どもの健康状況について、医療機関などに相談や連携ができる体制になっている。	A	
(3)育児相談などに際して、児童相談所などの専門機関に相談 や連携ができる体制になっている。	A	

(4) 小学校との間で、小学生と園児とが互いに行事等で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの機会がある。	A B
(5) 民生・児童委員や自治会等の地域団体と連携した取り組みを行っている。	B
(6) 近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼するなどの配慮をしている。	B
(7) 中高生などの保育体験を受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解されている。	B
<b>2 実習・ボランティア</b>	
(8) 実習生を受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、実習担当者も決められている。	A
(9) ボランティアを受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。	A
<b>IV. 運営管理</b>	
<b>1 基本方針</b>	
(1) 保育所の保育理念及び基本方針が明文化されている。	A
(2) 保育理念や基本方針を職員、保護者、関係者に周知するための取組みを行っている。	B
<b>2 組織運営</b>	
(3) 保育の質の向上や改善のための取組みを、職員参加により行っている。	B
(4) 保育の内容について、職員参加により、定期的に自己評価を行っている。	C
(5) 職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	B
<b>3 守秘義務の遵守</b>	
(6) 守秘義務の遵守を周知している。	A
<b>4 情報提供・保護者の意見の反映</b>	
(7) 情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	A
ア 園だより、クラスだより等を園児の保護者以外にも配布している。	
イ パンフレットや要覧等を保護者以外にも配布している。	
ウ 園外向けの掲示板やポスター等で、園の様子や行事などについて、地域の人を見てもらえるようにしている。	
エ ホームページや情報誌など誰もが安易に入手できる形態の広報媒体がある。	
オ 園の運営状況等についての情報を求めて応じて公開できるようにしている。	
(8) 保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	A
<b>5 安全・衛生管理</b>	
(9) 事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	A
(10) 事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	A
(11) 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	A

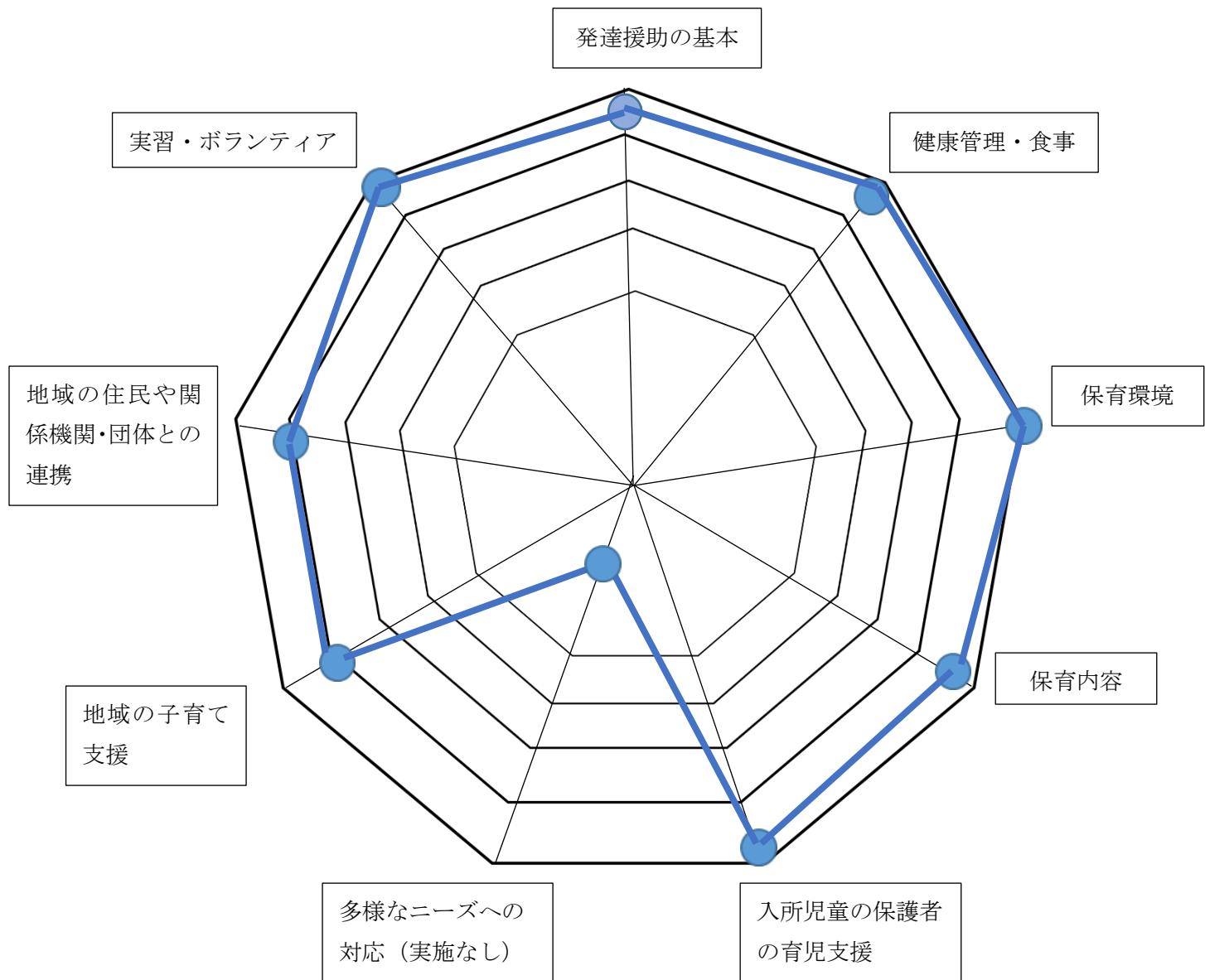
◎ 自己評価結果表

★子どもの発達援助		
1 発達援助の基本	2 健康管理・食事	3 保育環境
A—3 B—2 <b>9.6 ポイント</b>	A—5 B—1 <b>9.8 ポイント</b>	A—2 <b>10 ポイント</b>
4 保育内容		
A—8 B—3 <b>97 ポイント</b>		
★子育て支援		
1 入所児童の保護者の育児支援	2 多様なニーズへの対応	3 地域の子育て支援
A—5 <b>10 ポイント</b>	実施なし	A—1 C—1 <b>9 ポイント</b>
1 地域の住民や関係機関・団体との連携	2 実習・ボランティア	
A—8 B—3 C—1 <b>9.8 イント</b>	A—2 <b>10 ポイント</b>	
★運営管理		
1 基本方針	2 組織運営	3 守秘義務の遵守
A—1 <b>9.5 ポイント</b>	B—2 C—1 <b>8.7 ポイント</b>	A <b>10 ポイント</b>
4 情報提供・保護者の意見の反映	5 安全・衛生管理	
A—2 <b>10 ポイント</b>	A—3 <b>10 ポイント</b>	

★全体の総合所見

- ・保育目標をもとに「10 の姿」を理解し、自信を持って保育対応をしていくよう自己評価・園評価に取り組むことで、自分自身の保育を振り返るとともに、他者の考えを聞き、学び、保育に対する目標を見出すことができた。
- ・保育の基本である家庭や地域との連携を図り、子どもたちが健康で情緒が安定した生活がおくれるよう、地域との連携に関しては、地域の方の来園する機会を積極的に増やすなど、より密な連携を築いていく必要がある。
- ・保護者や保育士の気付きによる問題提起から職員間での話し合いをその都度持ったことで、保育に対して共有化を図ることができた。それにより、どこに問題があるかの発見と、今後への取り組み方や考え方につながり、課題に対しては前向きに取り組む必要性を感じた。
- ・多様な保育ニーズへの対応については、一時保育等の実施はしているが、今後、子育て相談等の受け入れ体制を検討していきたい。

## ★子どもの発達援助



## ★運営管理

